

Title	CJLC教育説明会報告
Author(s)	
Citation	大阪大学日本語日本文化教育センター授業研究. 2009, 7, p. 29-30
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/7640
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

CJLC教育説明会報告

日本語日本文化教育センターでは、FD (Faculty Development) の一環として本センターの教育に携わる教員を対象に研修会等を開催している。毎年、学期はじめには新規任用の非常勤講師を対象に本センターの教育理念やカリキュラムについて説明する機会を設けてきたが、大阪外国語大学と大阪大学との統合後、本センターの教育体制にも変化があり、新規任用講師に限らず、引き続き本センターの留学生教育を担当される非常勤講師に対しても、プログラム構成や科目内容について改めて説明する必要性が生じた。以下では、今年度春学期と秋学期に開講した授業について実施した2回の「CJLC教育説明会」について、その概要を報告する。

昨年度3月に1回目のCJLC教育説明会をおこなった。概要は以下の通りである。

日 時：2008年3月22日（土）

場 所：日本語日本文化教育センター多目的ホール、他

対 象：新規採用者および必修日本語科目担当者

担 当：科目コーディネーター、クラスアドバイザー

この説明会では、新規任用非常勤講師に加え、Uプログラム必修日本語（初級および上級）とMAPLEプログラム必修日本語（中級）の担当者に対し、当該科目のコーディネーター（本センター専任教員）より、プログラム概要、授業内容、教材、評価方法等の他、受講生の日本語レベルについて詳しい説明がなされた。新規に必修科目を担当する17名のうち14名の参加があり、本会で提供される説明に対する需要の高さが窺われる。

さらに初めての試みとして、上記の科目説明の後、前年度も必修科目を受け持った講師も交え、授業や学生の様子等に関する情報や経験を共有するためのセッションを新たに設けた。本センターの必修日本語科目は、複数の講師が一つのクラスを担当し、リレー式に教育を積み重ねていくシステムを採っている。講師間の授業引継はもっぱら連絡ノートやメールによるのみであるため、このような講師間の直接的な交流は、新年度から同一クラスを受け持つ講師や専任クラスアドバイザーの「顔合わせ」の場ともなり、参加者からは非常に有意義な機会であったと高い評価を受けた。

ただ、初めての企画ということで、会の進行が予定通りとはいかなかった面もあった。それについては、次回以降の計画に生かすことのできる貴重な経験となったと捉えたい。

本センターでは、本年度秋学期より、短期留学日本語日本文化特別プログラム [OUSSEP-Maple] の新設、全学共通国際交流科目の提供、中上級レベル日本語科目の細分化、Uプログラム上級カリキュラムの開始等、新たな教育体制がスタートした。それに伴い、授業担当者が対象学生の日本語レベルに応じた適切な授業ができるよう詳しい情報提供を行うことを目的に本年度2回目のCJLC教育説明会を9月に開催した。概要は以下の通りである。

日 時：2008年9月13日（土）

場 所：日本語日本文化教育センター多目的ホール、他

対 象：2008年度秋学期に下記科目を担当する講師

OUSSEP-Maple日本語科目、日研究生対象選択科目（研修・研究）、学部留学生既習者対象必修日本語科目

担 当：プログラムコーディネーター、コースコーディネーター、科目コーディネーター

旧外大時代の短期留学MAPLEプログラムを継続発展させたOUSSEP-Mapleが秋学期より始まり、それと共に本センターから国際交流科目（留学生と日本人学生がともに学べる科目）の提供をおこなった。当該科目は、その提供が本センターにとって初めてであるだけでなく、従来とは異なるタイプの科目である。それ故、説明会においても授業担当者から、「どのような学生が受講するのか」、「センター外の学生が受講したとき、その履修指導（管理）は誰が行うのか」、「聴講生とはどのように異なるのか」等、多くの質問が出された。我々が想定していなかった問題が明らかになったことで、授業開始後の混乱を回避するための予防策を講じることができたという点でも、本説明会の開催は、対象講師のみならず本センターにとっても極めて有意義であったと言えよう。

また、留学生達の多様な日本語レベルやニーズに応じた授業をおこなうために日研究生対象の選択科目において中級と上級のレベルを細分化した授業を試みを秋学期より開始することになった。説明会では、該当する科目の担当者にそのことを説明するとともに、最適なレベル分けを策定するための調査への協力を求めた。

さらに、既習者や上級レベルの学生が急増した国費学部留学生プログラム（Uプログラム）において、従来、移行期（1月～3月）で教えていた内容を早期に開始し、「上級カリキュラム」として再編することとなった。Uプログラムのセッションでは、教材についての提案がなされるなど、活発な意見交換がおこなわれた。また、新規任用講師からは、『履修案内』に記載されていないプログラムの詳細や実際の学生について説明を受けたことで理解が深まり、授業運営の参考になったとの評価を得た。

このような実際の授業に即した具体的な説明会を開催したのは、今年度が最初であったが、担当者カリキュラムや科目について理解を深めてもらい、円滑に連携授業を遂行させるために有益であった。さらに、普段はお互いの「顔」を見ることがない同一クラス担当者が交流する場となったことも意義深いものであったと思われる。

なお、2009年度春学期授業担当者を対象に下記の日程で説明会を実施したが、その報告については別の機会に譲りたい。

日 時：2009年3月20日（金）

場 所：日本語日本文化教育センター多目的ホール、他

対 象：主に2009年度春学期に必修科目を担当する講師および新規任用講師